



校内研究の更なる充実 ③

授業記録の作成及び活用

子供の実態に即した授業研究を行う上で、**授業記録**は極めて重要な役割を果たします。

授業記録には、教師の発問や指示、それに伴う特定の子供の発言やつぶやき、活動状況のほか、表情や雰囲気など非言語的な情報も可能な限り筆記します。

この授業記録を、授業後の協議資料として生かすことは、**子供の実態に即した授業改善**につながります。

「はむらの授業指針」の【子供の視点④ 誰もが参加できる】には、「苦手な子供も得意な子供も、力を発揮できる」とあります。

その一つの手立てとして、「観点別学習状況の評価C及びAの子供への指導の手立てをあらかじめ用意し、活用」することが記載されています。

授業記録を基に、観点別学習状況の評価C及びAの子供への指導の手立ての有効性について議論することで、**苦手な子供を救い、得意な子供を更に伸ばす授業**に更に磨きをかけたいものです。



鍛錬の功を積む

実業家 渋沢栄一

意志を強固に保つには、ぜひ鍛錬の功を積まねばならぬ。

日常身辺に蝟集（いしゅう）する事物は、一つとして鍛錬の材料とならぬものはない。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 子供たちの耐性をいかに養うか、現代における重要課題の一つであると考えます。